

細胞外記録に便利！知られざる DM システムの機能 -3

知られざる DM システムの機能、第3回目は「Clear & Return」についてです。DM システムのご紹介も今号で最終回となりました。ぜひ、これまでの機能を組み合わせて使用頂き、時短や作業効率を図ってみてください♪

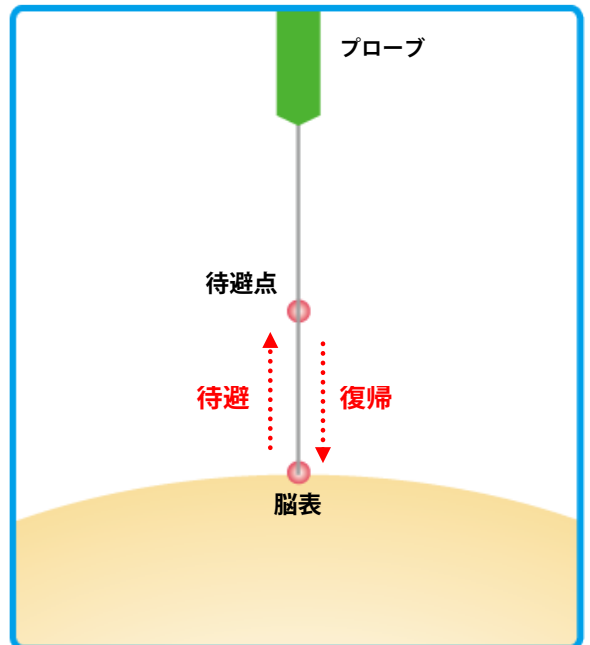


プローブを待避させる機能はある？
その後、また元の位置に戻したいのだけれど…



あります！
CLR/RET キーを使うとワンアクションで待避・復帰が可能です！また、「待避点」と「スピード」の設定を行えます。

- 「待避点」は任意の位置に設定が可能です。
CLR/RET キーを押すと、現在の位置がプラスでもマイナスでもワンアクションで待避点まで移動します。もう一度キーを押すと、移動前の位置に戻ります。
- 「スピード」は Hz を変更します。Coarse/Fine/S.Fine 共通 Hz です。



「待避点」と「スピード」の設定方法

「待避点」

1. MENU を押して、パラメーターモードに切り替え【Function】へ進む
2. 【Clear & Return】⇒【CH1】⇒【Clearing depth】を選択
3. 待避点（数値）を入力
※駆動部のリミットにご注意ください。待避点の入力は駆動範囲（DMA-1551 は 35mm）を超えて入力できますが、実際はリミットまでしか駆動できません。

「スピード」

1. MENU を押して、パラメーターモードに切り替え【Function】へ進む
2. 【Clear & Return】⇒【5-phs step motor freq】⇒ Hz 変更
3. 初期値 “5,000Hz” を任意に変更

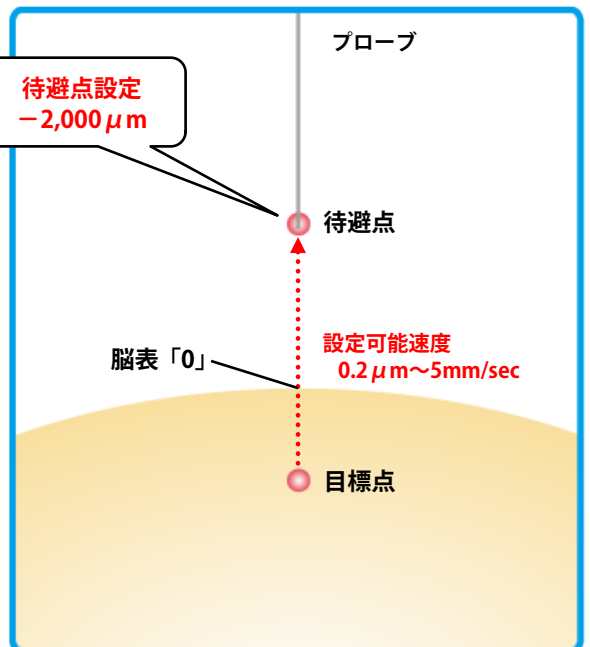
★Hz とスピードの関係については、前号を参考にしてください。

WEB NEWS 093: <http://news.narishige-group.com/pdf/news093jp.pdf>

活用場面～こんな時に便利～（右図参照）

例えば、目標点での計測終了後にプローブを抜く際に活用できます。ゆっくり抜きたいけれど、自動で抜いている間に他の作業がしたい…ということはありませんか？

CLR/RET の「待避点」と「スピード」を設定しておけば、計測後はキー操作一つで完了です。機能を有効活用して、作業効率を図ることができます。



《DM システムを使用した製品》

- ・DMA-1510/1511 (SM-11 用)
- ・DMA-1550/1551 (SMM シリーズ、SM-15 用)
- ・MO-82
- ・MO-952
- ・MO-972
- ・MO-972A

ご不明な点等がございましたら、お気軽に弊社までお問い合わせ下さい。